

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：34520

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K24215

研究課題名（和文）新人看護師の組織社会化におけるプロアクティブ行動と看護実践能力との関連

研究課題名（英文）Relationship Between Proactive Behaviors in Organizational Socialization of New Graduate Nurses and Clinical Nursing Competence

研究代表者

卯川 久美（UKAWA, HISAMI）

宝塚大学・看護学部・教授

研究者番号：40847266

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：新人看護師の組織社会化におけるプロアクティブ行動と看護実践能力との関連を明らかにした。調査期間は2020年1月～3月。66施設の新人看護師1,363名に調査票を配布し、278名を分析対象とした。調査内容は、1) 新人看護師の組織社会化によるプロアクティブ行動尺度、2) 看護実践能力自己評価尺度の達成の程度。モデルの適合度は、GFI=0.968、AGFI=0.936、CFI=0.985、RMSEA=0.060であった。多重指標モデルでは、プロアクティブ行動からCNCSSへのパス係数は0.54、決定係数は0.29を示した。プロアクティブ行動は、看護実践能力に比較的強い影響を与えることが確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

組織社会化のなかで発揮するプロアクティブ行動とは、組織に入職した個人が組織への適応をめざしてとる積極的な学習行動である。新人看護師が組織社会化のなかで発揮するプロアクティブ行動は職場適応に影響を与えることが明らかになっている。新人看護師の組織社会化におけるプロアクティブ行動と看護実践能力との関連を明らかにすることは、新人看護師の職場適応を促進するための基礎資料となる。

研究成果の概要（英文）：The relationship between proactive behavior and nursing practice competence in organizational socialization among new nurses was determined. The study period was from January to March 2020; questionnaires were distributed to 1,363 new nurses from 66 facilities, and 278 were included in the analysis. The survey included 1) the Proactive Behavior Scale by Organizational Socialization of New Nurses and 2) the degree of achievement of the Nursing Practice Competence Self-Assessment Scale. The goodness of fit of the model was GFI=0.968, AGFI=0.936, CFI=0.985, and RMSEA=0.060. The multiple indicator model showed a path coefficient of 0.54 from proactive behavior to CNCSS and a coefficient of determination of 0.29. Proactive behavior was confirmed to have a relatively strong impact on nursing practice competence.

研究分野：看護教育学

キーワード：新人看護師 組織社会化 プロアクティブ行動 看護実践能力

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

看護実践能力向上のために各施設ではさまざまな取り組みがされているが、新人看護師の離職率は7%後半を推移しており、2010年度に臨床研修等が努力義務となってからも、大きな改善はみられていない。その原因として、臨床現場で必要とされる臨床実践能力と看護基礎教育で修得する看護実践能力との乖離であることが指摘されている(厚生労働省, 2014)。

組織に適応するために必要とされる技術や知識を学習するプロセスのことを組織社会化という。当初の組織社会化の研究は、組織が個人に対して組織の構成員として適合するように働きかける研究が主であった。しかし、1990年初頭以降、それとは逆に新たに組織に参加する個人が積極的に適応するための行動をとることの重要性が注目されはじめた。この取り組みをプロアクティブ(proactive)行動研究と呼ぶ(小川, 尾形, 2011)。

Ashford & Black(1996)は、様々な組織に勤務する新入者を対象に、プロアクティブ行動を測定する尺度を開発し、その下位尺度は<情報探索行動><フィードバック探索行動><一般的社会化><ネットワーク構築><上司との関係構築><職務転換交渉><肯定的認知枠組み>の7つであった。申請者(2018)は、プロアクティブ行動を「前向きに未知の情報を探し、主体的に他者との関係を構築し、自己の認知をコントロールして適応のための行動選択をすること」と定義し、新人看護師を対象に、組織社会化におけるプロアクティブ行動尺度を開発した。この尺度は【看護技術習熟行動】【人間関係確立行動】【積極的学習行動】【他者からのフィードバック探索行動】の4つの下位尺度から構成され、先行研究にはなかった【看護技術習熟行動】を抽出した。また、新人看護師の組織社会化におけるプロアクティブ行動が職場適応に影響することも証明した。看護技術の未熟さを新人看護師自身が認識することは、リアリティショックの要因となることが指摘されている(高橋, 米山, 2011)。

そこで、本研究では、新人看護師の組織社会化におけるプロアクティブ行動と看護実践能力の関連を明らかにする。

2. 研究の目的

本研究では、新人看護師の組織社会化におけるプロアクティブ行動と看護実践能力との関連を明らかにした。

3. 研究の方法

(1) 調査期間

2020年1月～3月。

(2) 対象者

全国病院一覧データから病床数200床以上の病院を系統抽出法にて300施設抽出し、同意が得られた新人看護師。

(3) 調査内容

- ①新人看護師の組織社会化によるプロアクティブ行動尺度：20項目5件法、
- ②看護実践能力自己評価尺度の達成の程度(Clinical Nursing Competence Self-assessment Scale:CNCSS:64項目4件法)(中山ら, 2010)、
- ③個人属性。

(4) 分析方法

多重指標モデルを作成し、新人看護師の組織社会化におけるプロアクティブ行動とCNCSSとの関連を検討した。

(5) 倫理的配慮

本研究は大手前大学研究倫理委員会の許可を得て実施した（承認番号 20）。

調査票の返送をもって同意を確認した。尺度の使用にあたり開発者に使用許可を得た。

4. 研究成果

66 施設の新人看護師 1,363 名に調査票を配布し、319 名（回収率 23.4%）から回答が得られた。278 名（有効回答率 20.4%）を分析対象とした。対象者の背景は、女性が 262 名（94.2%）、男性が 16 名（5.7%）、年齢は平均 22.8 歳（SD=±2.22）であった（表 1）。

表 1 対象者の背景

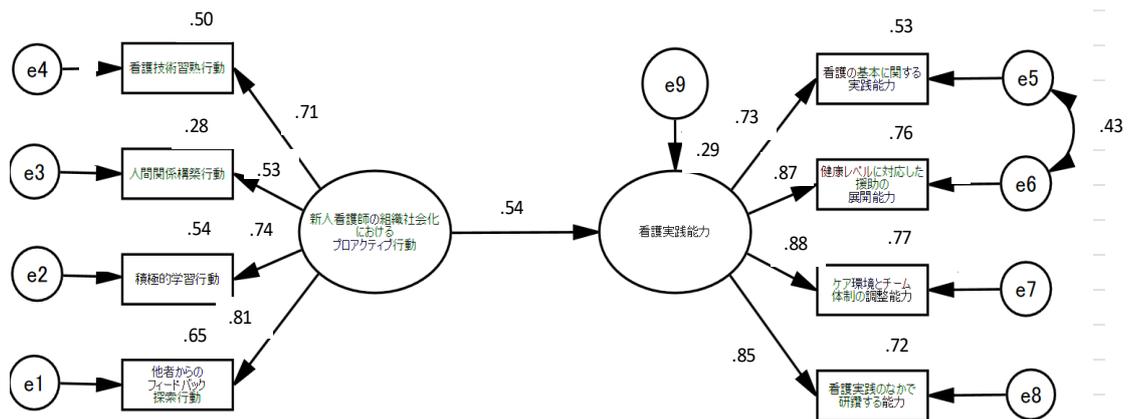
		n=278			
		n	%	平均値	標準偏差
年齢				22.8	2.22
看護師としての経験月数				9.64	1.06
性別	女性	262	94.2		
	男性	16	5.7		
一般学歴	高等学校	136	48.9		
	短期大学	16	5.8		
	大学	118	42.2		
	大学院	3	1.1		
	不明	4	1.4		
修了した看護専門学歴 (複数回答)	専門学校2年課程	25	9.0		
	専門学校3年課程	126	45.3		
	短期大学2年課程	1	0.4		
	短期大学3年課程	2	0.7		
	大学	111	39.9		
	大学院修士課程	3	1.1		
	大学院博士課程	0	0.0		
	保健師学校・専攻科	8	2.9		
	助産師学校・専攻科	13	4.7		
	その他	9	3.2		
病棟の診療科	外科系	79	28.4		
	外科系・混合	4	1.4		
	混合	72	25.9		
	混合・その他	1	0.4		
	内科系	50	18.0		
	内科系・外科系	5	1.8		
	内科系・外科系・混合	1	0.4		
	内科系・混合	2	0.7		
	その他	24	8.6		
	未記入	40	14.4		
設置主体	独立行政法人国立病院	98	35.3		
	医療法人	63	22.7		
	都道府県・市町村	70	25.2		
	その他/不明	47	17.0		

概念枠組みに基づき、共分散構造モデルを構成し分析を行った。本研究の概念枠組みに基づき、潜在変数 [プロアクティブ行動] の観測変数に【看護技術習熟行動】【人間関係構築行動】【積極的学習行動】【他者からのフィードバック探索行動】を投入した。潜在変数 [看護実践能力] は、

観測変数に【看護の基本に関する実践能力】【健康レベルに対応した援助の展開能力】【ケア環境とチーム体制の調整能力】(看護ケアの展開能力)【看護実践のなかで研鑽する能力】の4つの看護実践能力の概念を投入した。最尤法による共分散構造分析の結果、すべてのパス係数は、.1%水準で有意を示し、[プロアクティブ行動]から[看護実践能力]へのパス係数は、.54であった。

[看護実践能力]の決定係数は、.29であった。本モデルの適合度は、GFI=.949, AGFI=.904, CFI=.964, RMSEA=.089であった。適合度の結果を踏まえて、修正指数と改善度を参考にモデルに修正を加え、再分析を行った。【看護の基本に関する実践能力】(e5)と【健康レベルに対応した援助の展開能力】(e6)に共分散を設定した。その結果、新人看護師の組織社会化におけるプロアクティブ行動と看護実践能力の多重指標モデルの適合度は、GFI=.968, AGFI=.936, CFI=.985, RMSEA=.060であった。すべてのパス係数は、.1%水準で有意を示し、[プロアクティブ行動]から[看護実践能力]へのパス係数は、.54であった。[看護実践能力]の決定係数は、.29であった。[プロアクティブ行動]から下位尺度に対するパス係数は、【看護技術習熟行動】は、.71、【人間関係構築行動】は、.53、【積極的学習行動】は、.74、【他者からのフィードバック探索行動】は、.81であった。[看護実践能力]から下位尺度に対するパス係数は、【看護の基本に関する実践能力】は、.73、【健康レベルに対応した援助の展開能力】は、.87、【ケア環境とチーム体制の調整能力】は、.88、【看護実践のなかで研鑽する能力】は、.85であった。【看護の基本に関する実践能力】(e5)と【健康レベルに対応した援助の展開能力】(e6)の相関係数は、.43であり、.1%水準で有意な相関を示した。

適合度指標の結果から、新人看護師の組織社会化におけるプロアクティブ行動と看護実践能力の多重指標修正モデルは許容範囲内のモデルであると判断した。したがって、プロアクティブ行動は看護実践能力に影響を与えることが確認された(図1)。



GFI=.968, AGFI=.936, CFI=.985, RMSEA=.060

図1 新人看護師の組織社会化におけるプロアクティブ行動と看護実践能力の多重指標モデル

<引用文献>

Ashford, S. J., & Black, J. S. (1996). Proactivity during organizational entry: The role desire for control. *Journal of Applied psychology*, 81(2), 199-214.

厚生労働省. (2014). 新人看護職員研修ガイドライン 改訂版. /.2019/4/27 閲覧.
http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000049466_1.pdf.

- 中山洋子，工藤真由美，丸山育子，石井邦子，石原昌，大平光子，大見サキエ，小松万喜子，田村正枝，土居洋子，戸田肇，永山くに子，東サトエ，松成裕子．（2010）．看護実践能力の発達過程と評価方法に関する研究－臨床 1 年目から 5 年目までの看護系大学卒業看護師の実践力に関する横断的調査．平成 18 年～21 年度科学研究費補助金（基盤研究（A）），1-61．
- 小川憲彦，尾形真実哉．（2011）．組織社会化．経営行動科学編著．経営行動科学ハンドブック，319-324，東京：中央経済社．
- 高橋友子，米山直樹．（2011）．日本における新人看護職職場適応に関する研究の現状と課題．臨床教育心理学研究，37，11-17．
- 卯川久美．（2018）．新人看護師の組織社会化におけるプロアクティブ行動が職場適応に及ぼす影響．博士論文，大阪府立大学．

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 卯川 久美
2. 発表標題 新人看護師の組織社会化におけるプロアクティブ行動と看護実践能力との関連
3. 学会等名 第40回 日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------